

第 28 回大会の予選審査を経て、**全部門**に共通して感じたこと

まず「審査委員に解り易い説明になっているか？」という観点ですが、作品紹介の半数以上は、直感的に「説明不足である」という印象を受けました。具体的には「技術的な観点からの説明をするためにどのような工夫をしたか」が見えてこないということです。

課題部門や自由部門において毎年伝えていることですが「何故このアイデアを思いついたか」、「どのような理論と技術を使って問題を解決するのか」、「提示している機能をどのレベルまで実現するのか」などについて解り易く述べて欲しいのです。そして競技部門には「与えられたテンプレートの枠内に審査委員が理解するに足りるだけの情報を提示して欲しいのです。

そこで応募作品を再度確認すると「アイデア、機能、活用する技術、類似システムとの比較、スケジュール、制作環境」などの項目は取り上げられているものの、総じて説明不足であるとの実感をえました。もう少し丁寧に記述して欲しかったと思います。

課題部門で感じたこと

「スポーツで切り拓く明るい社会」というテーマは 2 年目ということもあって、アイデアが広がったように感じました。その一方で、アイデアに応じた創意工夫（たとえば、利用者の思いに関する調査、実現方法の理論と具体的なシステム構築法、デバイスの製作法、コンテンツ情報の収集方法）、及び主たる対象者などのうちいずれかの観点が欠落している作品が 7 割近くもあったことが気になりました。ただし、理論的にも技術的にも実現可能な作品が 1 割半以上あるため、本選では高い成果が得られるであろうと期待しています。

自由部門で感じたこと

昨年にくらべて応募作品が 1 割ほど増えました。しかもアイデアが多様で、最先端の話題にも触れられています。ただし、「問題分析とシステム構築」、「情報技術の適用」がどこまで効果的に実現するのかについては想像不可能です。何故ならば皆さんのこれからの作業によって変わるからです。このことを視野に入れて各チームに送ったコメントは、少し厳しめに記してあります。本選では、それぞれの作品が更に有用性の高いシステムへと変身することを期待しています。

競技部門で感じたこと

過年度の受賞チームの応募資料が公開されたこともあって、全体的に応募書類のレベルが少し向上したような印象を受けました。ただし、中には「もう少し丁寧に説明すれば、審査員にも分かりやすかったのでは？」と感じられるような資料が 1 割余りあったことも事実です。テンプレートへの記入内容にもう少し気配りができるとよかったと思います。本戦では、情報技術をどのように活用して戦略を立てるのが楽しみです。

競技部門に関しては、予選の PDF において、記載されている内容につじつまが合わないと感じられるものが相当数ありました。記載する内容については、手法やアルゴリズム等をじっくり検討し、資料としての整合性にも配慮してほしいと思います。

(本選での対戦を楽しみにしています。)

最後にひとこと

“あと 3 ヶ月頑張ろう！ IT の志士たちへ”